

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成28 年度

[↑操作ボタン](#)
講義科目名称 : **ワークショップ論**授業コード : **54015**

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期: 金曜4限			
配当学科・学年			
人社1			
担当教員			
村尾 敏彦、中村 英一朗			

授業テーマ	「ワークショップ」を体を動かすことや、グループワークに参加することを通して基本から学ぶ
講義概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教えたまえただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれない。そのような中でこのワークショップ論では①体験する（参加者は相互に学び合う）、②振り返る（自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する）、③一般化する（体験を分析し概念化する）、④応用する（それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える）を通して、人間の成長につなげます。
到達目標	実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学ぶことができる。学びを通して、自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる。
評価方法	毎回の「振り返りシート」への記入（30%）と最後の授業でのレポート作成（70%）
評価基準	体験の振り返りにおいて、言語化し、一般化し、体験の意味するところを理解することができる。（可） 非日常の体験から、日常の自分と現実の社会・世界との関係を見つめ直し、できることから自分を変容していくことができる。（優・秀）
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・毎時講義の中で、感じたこと考えたことを「振り返りシート」に自分の言葉で丁寧に記載すること。 ・教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。履修者数が定員を超えると、抽選を行う場合があります。
準備学習	前時の振り返りを丁寧にを行い、毎授業ごとに提出すること。そのコメントを冒頭の授業で取り上げる。
オフィスアワー等	授業中、授業終了時、あるいは金曜日昼休みに村尾個人研究室（1-234）で質問に対応する。
備考・メッセージ	過去の受講生は、この授業で友人をつくることが多かったようです。生き方についてグループで話し合うワークがはいっているためでしょうか。

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
第1回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	ワークショップとは？（7つの側面・話し合うルール作り・聞くトレーニング）	授業の目的と全体像を理解する ワークショップとは何かを説明できるようになる		
第2回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ワークショップの基本（ブレーンストーミング・CARRトレーニング他）	ワークショップの基本を具体的な事例をもとに学び、使うことができる。		
第3回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ダイヤモンドランキング(仕事に求めるもの)	「仕事に求めるもの」について、ダイヤモンドランキングの手法を用いて考え、自分なりの意見・感想を述べる ことができる。		
第4回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	トラストゲーム（他者を感じて）	他者の身体と共有された空間を感じ取れるようになる		
第5回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	レスポンスゲーム（ひとからひとへ波のように伝わって…）	他者の身体からの表現に答えて、身体で表現できる		
第6回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える①『宇宙人に自己紹介』『ちがいのちがいがい』より	「宇宙人に自己紹介」「ちがいのちがいがい」のワークより、『違いを豊かさに』を実感を持って理解することができる。		
第7回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える②『熱気球』より ～結婚の条件～	『熱気球』の手法を使い、「結婚の条件」をグループワークを通して考え、自分なりの意見・感想を述べる ことができる。		

第8回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える③ 多数派少数派・青い目茶色い目 [DVD]	被差別の感覚を簡単なゲームを通して体験しつつ「青い目茶色い目」のDVDを視聴し、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第9回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	イメージを共有して（大縄跳び）	グループでイメージを共有して表現できる		
第10回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	Back to Back(絵を描くワーク)	言葉によるコミュニケーションの可能性と不可能性について語れる		
第11回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	粘土のワーク（ふたりで作ったら…）	「自己」について形象化できる		
				「自己」について考えることができる		
第12回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム① 南北問題を体験を通して考える	ゲームを通して世界の状況や日本の立ち位置を実体験として学び、その時に浮かんだ感覚や感情、思いを振り返ることで、世界の抱える南北問題について考えることができる。		
第13回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム② フォトランゲージ	前時の振り返りを丁寧にを行い、「世界の家族」からフォトランゲージの手法でとらえ直し、『豊かさとは何か』について、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第14回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	オークション（卒業までにつけたい力）	自身の大学生活についてビジョンをもてる		
				オークションの手法を使い「卒業までにつけたい力」をゲーム性を帯びながらも、各人や全体の動向が何であるかを知ることができる。また、そこから、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第15回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	授業のまとめ	体験を言語化できるようになる		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	演習	教室	2	視聴覚教材を活用する	90分×15

閉じる